



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第31回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

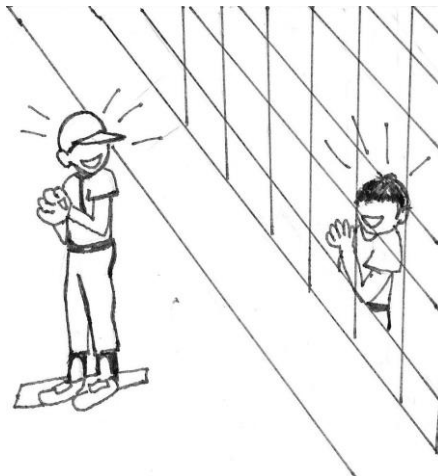
マナー編 ブルペンでのマナー

グラウンド内のブルペンで、投手がフェンス越しに応援団の一人と話をしているのを見て、審判が注意していました。

公認野球規則3・09には、「ユニフォーム着用者の禁止事項」の規定があります。「監督、コーチまたはプレーヤーは、試合前、試合中を問わず観衆に話しかけてはならない」のです。

試合中はもちろんですが、複数の試合が予定されている場合、前の試合の途中からブルペンでの投球練習が許されます。スタンド内部に施設があれば問題は少ないのですが、グラウンド内・ファウル地域のブルペンに気をつけなければなりません。観客席とはフェンス一枚、誰とでも話をする事ができるからです。先輩やOBなどに声をかけられると、思わず返事をしてしまう雰囲気かもしれません。校庭で行われる地区大会などではこんなでき事が起こりやすい状況にあります。

話しかける側にはマナー違反の認識不足ですが、受け応える側には明確なルール違反を確認しましょう。何よりも責任教師をはじめ指導者の管理事項として留意したいものです。



ルール編 試合開始前の負傷による選手変更の特例

連盟の主催する公式試合では、第1試合は開始時間の1時間前、第2試合以降は前の試合の4回終了時に攻守決定と打順表を交換するのが原則です。ところがその打順表に記載された選手が試合開始までに負傷か病気かわかりませんが、不測の事態が起きたようです。このような場合、試合は挙行できるのでしょうか。

『高校野球特別規則10』では、このような場合の特例を次のように認めています。
「メンバー交換の後、試合開始前の両チーム整列までの間に、**メンバー表に記載された選手が突発事故の発生により止むを得ず先発出場が不能となった場合、控え選手を交代出場させることができる。**その場合、出場不能となった交代選手は試合に出場しなかったことになり、回復すれば以後の試合に出場することができる。」(規則4.01)
ベンチ入り登録選手の人数制限、また、日ごろの成果を発揮してほしい…を考慮した規則です。できることなら何とか!の思いがあふれていますが、無理強いは禁物。十分な安全確認がされない限り、安易な心情判断は許されるものではありません。